

みなとMIOMACHIケンチクさんぽ vol.13

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部

兵庫地域会 地域まちづくり委員会

元町商店街に賑わいが



賑わう元町商店街

新型コロナウイルスの流行も一段落すると、街には人が戻り始めました。元町商店街界隈も以前の賑わいを取り戻しつつあり、土日ともなると、コロナ前にこんなに人通りがあったっけ?と訝しがりながら歩くことになりま。もともとインバウンド向けのお店が少なかったせいか、比較的、お店の入れ替わりも少なく、空きテナントの看板も目立ちません。

大丸側から商店街に入ると、全国的に名の知れた和洋の菓子店の本店が存在感を示し、昔からの飲食店や服飾店の間にできた、最近流行の食パンやスイーツのお店に行列ができています。

魅力的な西元町

対して、神戸駅側から商店街に入り、6丁目から東に5丁目へかけて歩いてみると、意外と言っては失礼ですが、こちら活気があります!! 昔ながらのお店の間に地域の物産を取り扱うアンテナショップ的なお店や産地直送の青物屋、果物店がいくつかでき、文字通り、老若男女が行き交っています。店員さんも若い人が多く活気に満ち溢れています。野菜の詰まったダンボールを女の子が颯爽と積み下ろして、カッコいいのです。商店街の入り口には個性的な形のトレーラーショップがナポリタンを販売していたり、おしゃれなイタリアンやハンバーガー屋さんもできていたりして、近隣の飲食店や物販店も、心なしか以前より元気に感じます。



元町6丁目の賑わい

試しにインスタグラムで「#西元町」を検索してみると2.6万投稿。「#元町商店街」が6.1万投稿であることを思うと思わず頑張っているじゃないか西元町!!と叫んでしまいます。

新しいお店だけでなく、老舗も健在です。愛してやまない「亀井堂総本店」「陶舗サノヤ本店」「つるてん西店」。また、他所の商店街では、古くなったお店が退店した後に全国チェーンの飲食店や物販店が入ることが多いと思いますが、このエリアでは、ほとんど見当たりません。元町商人の心意気なのでしょう。全国どこにでもあのような、没個性的な街になっていない。素晴らしいと思います。



活気に満ち溢れるマルシェ



個性的なトレーラーショップ



人気の老舗飲食店

さらに素敵な街に

これらのお店の入替わりは自然発生的なものなのでしょうか? 計画的な店舗配置や出店計画が練られる大型店舗(イオンモールやらら〇と)と違い、商店街はいろいろと制約も多いと思いますが、今後伸びてくるであろう飲食店やスイーツのお店、神戸らしい物販店をうまく誘致できる仕組みがあればよいのではないかと思います。ハイカラやレトロだけに頼らない街づくりが理想的です。

周辺にアジアのお店ができると楽しいのではないかと思います。できればベトナムやインドネシアなど、陽気で元気な国のお店。既存の中国人街である南京町やインド、ネパールの料理店のように、異国情緒あふれる神戸の魅力を発信できると思います。

商店街に面した敷地がマンションとなっている場所もところどころ見受けられます。1階部分は店舗となっており、町並みの連続性が保たれています。隣の店舗やアーケードとのつながりに、担当した設計者が四苦八苦し跡が見受けられます。比較的うまくいっているものと、そうでないものがあり、今後は一層のノウハウの確立と法整備が待たれます。

それにしても、西元町駅と花隈駅の地味さはどうかしています。もともと、神戸高速鉄道の駅だったからだと思いますが、街に対する愛情が感じられません。阪神、阪急の奮起を期待します。

大型の駐車場がないのも惜しいところ。花隈駐車場をうまく活用できれば良いのですが。意外と駐車場割引サービス目当てで買い物する人は多い気がします。



変貌する元町商店街6丁目入口付近

神戸駅側の商店街の入り口、ホテル跡(さらに以前は三越だったところ)の建物は解体が始まっています。なにが集客力のある建物になれば良いのですが。街の構成上、どうしても神戸駅、ハーバーランド側と分断されたイメージになってしまっているので、今後、整備される道向かいの「きらら広場」や整備中のモトコーなどと合わせて、楽しく巡りたくなる、回遊性のある都市計画が期待されます。神戸駅と元町商店街を動く歩道でつなぐというのは非現実的なのではないでしょうか。

ジャズが流れて、珈琲の香りが漂う、港を感じられる素敵な街がいつまでもつづきますように。



山岡 哲哉(やまおか てつや)

山岡哲哉建築設計事務所 代表
2001-乙仲通の栄町ビルディングにて建築設計活動
日本建築家協会近畿支部兵庫地域会
地域まちづくり委員長